開設地方の民話の収集者 に に に な に 出 に 出 に 出 に 出 に 出 に 出 に 出 に 出 に 出 に 出 に れ て 取 り 上 げ ら れ て い る 。 有 名 な 作 品 に は 、 心 が 優 し く 、 約 束 を む で れ て い る 。 有 名 な 作 品 に は 「 大 工 と 鬼 六 」 が あ る 。 て 和 で 、 約 束 を き き き し 、 約 束 を き ち ん と 守 れ る 。 た ち の の 、 の に は 「 大 工 と 鬼 六 」 が あ る 。 こ た り 、 約 束 を き ち ん と 守 れ る 。 こ た り 、 約 束 を き ち ん と 守 れ る 。 こ た の う 書 い て い る 。 こ た の う ま れ て に ら れ て い る 。 こ た の 、 、 新 書 。 の 、 、 、 先 年 、 和 書 の 教 書 の 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 た の 、 、 、 、 た の 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	ににのかいた。その のお話に出てくる「鬼六 のお話に出てくる「鬼六 のお話に出てくる「鬼六 (現・胆沢区小山)に火 (現・胆沢区小山)に火 で、白い旗を推した。その で、白い旗を神妙にふる のが生まれて間もなく両親 で、白い旗を神妙にふる のが生まれて間もなく両親
--	--

- つ市本尋常高等い名交(見,奥川市工市本い名交)の代目文員にまれたい	1進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を	一九二三年(大正十二年)県立水沢農学校(現・水沢農業高校)	() でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時	注事をするようになる。小山尋常高等小学校(現・胆沢第一小学)	生活は苦しく、秀雄が三年生の時に父母は小山村にもどり、農家	0	(苦手だったが、二年生のときは全甲(すべての教科が最高)にな	ゴケ崎小学校)に入学する。頭のいい子どもで、体操と手工(図工)	一九一五年(大正四年)秀雄は金ヶ崎尋常高等小学校(現・	らしたが、明るく激しく笑う少年でもあった。」(『十月雑記』)	いった。私は泣き虫で、どこかの姉さんや伯母さんをさんざんてこ	*豆ばかり食った少女のように青く痩せた、しなしなの子どもで***
	しい社会をつくるべきことを主張した。 したりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新	胆沢郡内の村々をめぐり、したり、テストの白紙提出	但沢郡内の村々をめぐり、 したり、テストの白紙提出 農学校(現・水沢農業高坊	但沢郡内の村々をめぐり、 るなど大人びた少年でもあ したり、テストの白紙提出 したり、テストの白紙提出	胆沢郡内の村々をめぐり、 も全甲であった。六年生の もなど大人びた少年でもあ したり、テストの白紙提出 したり、テストの白紙提出	胆沢郡内の村々をめぐり も全甲であった。六年生 も全甲であった。六年生 も全甲であった。六年生 も全甲であった。六年生	胆沢郡内の村々をめぐり を全甲であった。六年生 を全甲であった。六年生 を全甲であった。六年生 でたり、テストの白紙提 でたり、テストの白紙提	世沢郡内の村々をめぐり 、テストの白紙提 や全甲であった。六年生 も全甲であった。六年生 も全甲であった。六年生 であった。六年生	ービュン (すべての教科が最高) (すべての教科が最高) を全甲であった。六年生 を全甲であった。六年生 を全甲であった。六年生 を全甲であった。六年生 したり、テストの白紙提 したり、テストの白紙提	ル沢郡内の村々をめぐり、 したり、テストの白紙提 豊学校(現・水沢農業 など大人びた少年でも など大人びた少年でも など大人びた少年でも したり、テストの白紙提	したり、テストの白紙提 やなど大人びた少年でも るなど大人びた少年でも るなど大人びた少年でも るなど大人びた少年でも を全甲であった。六年生 や全甲であった。六年生 で、体操と手工(団 したり、テストの白紙提	したり、テストの白紙提 したり、テストの白紙提 したり、テストの白紙提
一九二六年 (大正十五年)、水沢農学校を卒業した秀雄は、五月		出	市長め	に な の の	したりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新には織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあったは織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあった。 かん しょう たい しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう (えいしょう) (こう) (1000) (現・水沢農業高校) しょう (1000) (見・ 胆沢第一小学)) (仕事をするようになる。小山尋常高等小学校(現・ 胆沢第一小学	こたりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新いたができ成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。いは織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあった。満ちただで、「人」でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時には縦田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあった。 したりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新いただで、「うい」、「など」、「ない」、「など、大人」、テストの白紙提出をしたり、テストの白紙提出をした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新いたがでも、香雄が三年生の時に父母は小山村にもどり、農家	こたりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新したりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新したりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新したりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、美家に進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出をしたりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、農家に進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出をしたりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新したりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新したりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新したりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新したりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新したりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新したり、たいかがい。	したりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新生活は苦しく、秀雄が三年生の時に父母は小山村にもどり、農家生活は苦しく、秀雄が三年生の時に父母は小山村にもどり、農家には織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあった。 っ。 っ。 ここには織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあった。 でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時 には織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあっ たりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新	 □ ケ崎小学校)に入学する。頭のいい子どもで、体操と手工(図工) □ ケ崎小学校)に入学する。頭のいい子どもで、体操と手工(図工) □ たりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新したりした。また、弁論部に所属し、胆沢帯中学校(現・水沢農業高校) □ たりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新したりした。また、弁論部に所属し、肥沢帯中学校(現・水沢農業高校) □ たりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新したりした。また、弁論部に所属し、肥沢郡内の村々をめぐり、新したりした。また、弁論部に所属し、肥沢郡内の村々をめぐり、新したりした。また、弁論部に所属し、肥沢郡内の村々をめぐり、新したりした。また、弁論部に所属し、肥沢郡内の村々をめぐり、新したりした。また、弁論部に所属し、肥沢郡内の村々をめぐり、新したい、二年生のときは全甲(すべての教科が最高)になる。 	したりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新 立ヶ崎小学校)に入学する。頭のいい子どもで、体操と手工(図工) 立ヶ崎小学校)に入学する。頭のいい子どもで、体操と手工(図工) なる。 ・ は織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあっ には織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあっ には織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあっ したりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新	、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	のった。私は泣き虫で、どこかの姉さんや伯母さんをさんざんてこ のった。私は泣き虫で、どこかの姉さんや伯母さんをさんざんてこ こたりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新 したりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新 には織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあっ た。 たりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新
一九二六年(大正十五年)、水沢農学校を卒業した秀雄は、五月しい社会をつくるべきことを主張した。		こ進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を	こ進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を一九二三年(大正十二年)県立水沢農学校(現・水沢農業高校)た。	「進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を一九二三年(大正十二年)県立水沢農学校(現・水沢農業高校)へ。へ。	こ進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出をした。 (大正十二年)県立水沢農学校(現・水沢農業高校)でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時ん)でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時の仕事をするようになる。小山尋常高等小学校(現・胆沢第一小学	こ進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出をに進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出をには織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあった。 かんすうになる。小山尋常高等小学校(現・胆沢第一小学た。	2.進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出をに進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出をには織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあった。 すれた いっぽう しん こうしょう した しん 一九二三年 (大正十二年)県立水沢農学校(現・ル沢農業高校)一九二三年 (大正十二年)県立水沢農学校(現・水沢農業高校)。	2進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を2000年をするようになる。小山尋常高等小学校(現・水沢農業高校)でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時には織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあった。 う。 っ した。 一九二三年(大正十二年)県立水沢農学校(現・水沢農業高校) 一九二三年(大正十二年)県立水沢農学校(現・水沢農業高校) に進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を	1.進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を に進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を に進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を に進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を した。 (進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を	1.進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を こた崎小学校)に入学する。頭のいい子どもで、体操と手工(図工) エケ崎小学校)に入学する。頭のいい子どもで、体操と手工(図工) エケ崎小学校)に入学する。頭のいい子どもで、体操と手工(図工) () でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時 には織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあっ したい。 一九二三年(大正十二年)県立水沢農学校(現・水沢農業高校) (進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を	2.進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を 1.進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を 1.進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を 1.進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を 1.進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を 1.進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を 1.進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を 1.進学する。今雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を 1.進学する。	したが、明るく激しく笑う少年でもあった。」(『十月雑記』) したが、明るく激しく笑う少年でもあった。」(『十月雑記』) したが、明るく激しく笑う少年でもあった。」(『十月雑記』) したが、明るく激しく笑う少年でもあった。」(『十月雑記』) したが、二年生のときは全甲(すべての教科が最高)にな したが、二年生のときは全甲(すべての教科が最高)にな したい、二年生のときは全甲(すべての教科が最高)にな したい、二年生のときは全甲(すべての教科が最高)にな したい、二年生のときは全甲(すべての教科が最高)にな したい、二年生のときは全甲であった。六年生の時 には織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあっ た。 したい、 でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時 には織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあっ た。
一九二六年(大正十五年)、水沢農学校を卒業した秀雄は、五月こい社会をつくるべきことを主張した。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新に進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を	一九二三年(大正十二年)県立水沢農学校(現・水沢農業高校)		には織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあっまだという	には織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあっん)でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時	には織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあっひ)でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時の仕事をするようになる。小山尋常高等小学校(現・胆沢第一小学	には織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあっん)でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時い仕事をするようになる。小山尋常高等小学校(現・胆沢第一小学生活は苦しく、秀雄が三年生の時に父母は小山村にもどり、農家	には織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあっひ)でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時い仕事をするようになる。小山尋常高等小学校(現・胆沢第一小学?。?	には織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあっひ)でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時と活は苦しく、秀雄が三年生の時に父母は小山村にもどり、農家?。	こヶ崎小学校)に入学する。頭のいい子どもで、体操と手工(図工) こヶ崎小学校)に入学する。頭のいい子どもで、体操と手工(図工)	には織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあって、 でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時に父母は小山村にもどり、農家は苦手だったが、二年生のときは全甲(すべての教科が最高)になる。 しても成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時のいい子どもで、体操と手工(図工) しても成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時 してし、参雄が三年生の時に父母は小山村にもどり、農家 しても成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時 してし、参雄が三年生の時に父母は小山村にもどり、農家 しても成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時 してし、参雄が三年生の時に父母は小山村にもどり、農家 してし、一九一五年(大正四年)参雄は金ヶ崎尋常高等小学校(現・	、 ・ は織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあっ たい、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	いは織田一風のペンネームで俳句を作るなど大人びた少年でもあった。私は泣き虫で、どこかの姉さんや伯母さんをさんざんてこのった。私は泣き虫で、どこかの姉さんや伯母さんをさんざんてこのった。私は泣き虫で、どこかの姉さんや伯母さんをさんざんてこ
一九二六年(大正十五年)、水沢農学校を卒業した秀雄は、五月こたりした。また、弁論部に所属し、胆沢郡内の村々をめぐり、新に進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出をに進学する。秀雄は、軍事訓練に反対したり、テストの白紙提出を	一九二三年 (大正十二年)県立水沢農学校(現・水沢農業高校)/。			(() でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時	(() でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時))仕事をするようになる。小山尋常高等小学校(現・胆沢第一小学	(() でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時))仕事をするようになる。小山尋常高等小学校(現・胆沢第一小学生活は苦しく、秀雄が三年生の時に父母は小山村にもどり、農家	(() でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時))仕事をするようになる。小山尋常高等小学校(現・胆沢第一小学生活は苦しく、秀雄が三年生の時に父母は小山村にもどり、農家?。	(2)でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時と仕事をするようになる。小山尋常高等小学校(現・胆沢第一小学え。)。 (2)でも成績がよく五年生の時に父母は小山村にもどり、農家は苦手だったが、二年生のときは全甲(すべての教科が最高)になる、またいたい、二年生のときは全甲(すべての教科が最高)にない。	(人)でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時には苦手だったが、二年生のときは全甲(すべての教科が最高)になる。小山尋常高等小学校(現・胆沢第一小学な)にまたが、二年生のときは全甲(すべての教科が最高)になった崎小学校)に入学する。頭のいい子どもで、体操と手工(図工)	 (人)でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時の仕事をするようになる。小山尋常高等小学校(現・胆沢第一小学さ)、赤崎小学校)に入学する。頭のいい子どもで、体操と手工(図工)。 (つ九一五年(大正四年)秀雄は金ヶ崎尋常高等小学校(現・一九一五年(大正四年)秀雄は金ヶ崎尋常高等小学校(現・ 	 ()でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時単ヶ崎小学校)に入学する。頭のいい子どもで、体操と手工(図工)単ヶ崎小学校)に入学する。頭のいい子どもで、体操と手工(図工)まヶ崎小学校)に入学する。頭のいい子どもで、体操と手工(図工)ままは苦しく、秀雄が三年生の時に父母は小山村にもどり、農家生活は苦しく、秀雄が三年生の時に父母は小山村にもどり、農家生活は苦しく、秀雄が三年生の時に父母は小山村にもどり、農家したが、明るく激しく笑う少年でもあった。」(『十月雑記』) 	 (人)でも成績がよく五年生、六年生とも全甲であった。六年生の時の一九一五年 (大正四年) 秀雄は金ヶ崎尋 常高等小学校(現・一九一五年 (大正四年) 秀雄は金ヶ崎尋 常高等小学校(現・生活は苦しく、秀雄が三年生の時に父母は小山村にもどり、農家生活は苦しく、秀雄が三年生の時に父母は小山村にもどり、農家生活は苦しく、秀雄が三年生の時に父母は小山村にもどり、農家のった。私は泣き虫で、どこかの姉さんや伯母さんをさんざんてこのった。私は泣き虫で、どこかの姉さんや伯母さんをさんざんてこの。
子校を卒業した秀雄は、 子校を卒業した秀雄は、	"" "" " " " " " " " "	" " " " " " " " " " " " " " " " " " "	こので、ので、ので、ので、の、山尋常高等小学校(現・胆沢第一小学の、、の、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	生活は苦しく、秀雄が三年生の時に父母は小山村にもどり、コーカー五年(大正四年)秀雄は金ヶ崎尋 常高等小学校(一九一五年(大正四年)秀雄は金ヶ崎尋 常高等小学校(一九一五年(大正四年)秀雄は金ヶ崎尋 常高等小学校(一九一五年(大正四年)秀雄は金ヶ崎尋 常高等小学校(「十月雑記」 「時小学校)に入学する。頭のいい子どもで、体操と手工(同一九一五年(大正四年)秀雄は金ヶ崎尋 常高等小学校(「一月雑記」 「「十月雑記」	うらしたが、二年生のときは全甲(すべての教科が最高)にないった。私は泣き虫で、どこかの姉さんや伯母さんをさんざんてこのった。私は泣き虫で、どこかの姉さんや伯母さんをさんざんてこれ、明るく激しく笑う少年でもあった。」(『十月雑記』)からしたが、明るく激しく笑う少年でもあった。」(『十月雑記』)がらしたが、明るく激しく笑う少年でもあった。」(『十月雑記』)がらしたが、明るく激しく笑う少年でもあった。」(『十月雑記』)がらしたが、明るく激しく笑う少年でもあった。」(『十月雑記』)	は苦手だったが、二年生のときは全甲(すべての教科が最高)になるった。私は泣き虫で、どこかの姉さんや伯母さんをさんざんてこのった。私は泣き虫で、どこかの姉さんや伯母さんをさんざんてこれを聞いり食った少女のように青く痩せた、しなしなの子どもで	■ヶ崎小学校)に入学する。頭のいい子どもで、体操と手工(図工)すらしたが、明るく激しく笑う少年でもあった。↓(『十月雑記』)すらしたが、明るく激しく笑う少年でもあった。」(『十月雑記』)かった。私は泣き虫で、どこかの姉さんや伯母さんをさんざんてこのった。私は泣き虫で、どこかの姉さんや伯母さんをさんざんてこの	一九一五年(大正四年)秀雄は金ヶ崎尋 常高等小 学校(現・9らしたが、明るく激しく笑う少年でもあった。」(『十月雑記』)かった。私は泣き虫で、どこかの姉さんや伯母さんをさんざんてこれ豆ばかり食った少女のように青く痩せた、しなしなの子どもで	ゝらしたが、明るく激しく笑う少年でもあった。」(『十月雑記』)。った。私は泣き虫で、どこかの姉さんや伯母さんをさんざんてこ小豆ばかり食った少女のように青く痩せた、しなしなの子どもで≌***	aった。私は泣き虫で、どこかの姉さんや伯母さんをさんざんてこ小豆ばかり食った少女のように青く痩せた、しなしなの子どもで	小豆ばかり食った少女のように青く痩せた、しなしなの子どもで	

さらに、仙台に移って新聞記者として働きながら何とか生活を支え
東京に出た秀雄は、新興教育所創立に参加し、小説を書いたり、
道を探そうとしていたのであった。
情熱家の秀雄は、そうした時代の流れを見て、自分の生きる新しい
官が来て留置場に入れられたこともあった(すぐに釈放された)。
てきた時代でもあった。秀雄も真城小学校に勤務していた時、警察
であった。そして民衆の団結が強まる中で、取締りや弾圧が強くなっ
上京した。当時は政治、経済の不安から、人々の生活が苦しい時代
昭和五年(一九三〇)、二十二歳で、真城尋常高等小学校を退職し、
「岩手童言集」などにまとめられて残っている。
民話や民謡は「童子の聞いた話」「胆沢郡 昔 噺 集」「胆沢民謡研究」
れた。秀雄が子どもたちと一緒に地域の人たちに聞き歩いて集めた
第三号』には、壮次ぢいの語った話として「大工と鬼六」が発表さ
はやし立てて喜んでいる姿が見えるようなものが多数ある。『天邪鬼
は発表し続けた。これらの詩には、笑いこけて、子どもたちと共に
には「ヤロコ詩」(ヤロコとは童子・子どものこと)などを集めて
ど、わずか二年九カ月の間に百五十を越す作品を発表した。『天邪鬼』
草』に四、岩手毎日新聞に十八、自ら主宰した『天邪鬼』に十九な
日報に五十、『赤い鳥』への投稿で活字になったもの四、短歌誌『牧

*参考文献		近くに、彼の詩「百姓人形」の詩碑が建立された。	二〇〇八年(平戎二十年)、小山地区・笹森地内の秀雄の主家の	い生涯を終えた。秀雄は、現在は胆沢区小山の墓に眠っている。	化のため二日後に亡くなった。死因は肺結核。秀雄は三十四歳の短	のまま胆沢病院に入院。治療は受けたものの、極度の衰弱と病気悪	に帰えるが、小山にある生家に歩いて行けないほど弱っていて、そ	身も病気になり、一九四二年(昭和十七年)十二月、なんとか水沢	で結婚し、翌年には長男も生まれたが、生後三カ月で病死。秀雄自	こうした貧しい生活の中で一九四〇年 (昭和十五年)、三十一歳	ていた
	*参考文献	*参考文献	*参考文献	*参考文献 二〇〇八年(平成二十年)、小山地区・笹森地内の秀雄の生家の	*参考文献 *参考文献	*参考文献	*参考文献 *参考文献	*参考文献 *参考文献	*参考文献 *参考文献	*参考文献 *参考文献	こうした貧しい生活の中で一九四〇年 (昭和十五年)、三十一歳 で結婚し、翌年には長男も生まれたが、生後三カ月で病死。秀雄自 で結婚し、翌年には長男も生まれたが、生後三カ月で病死。秀雄自 に帰えるが、小山にある生家に歩いて行けないほど弱っていて、そ に帰えるが、小山にある生家に歩いて行けないほど弱っていて、そ に帰えるが、小山にある生家に歩いて行けないほど弱っていて、そ に帰えるが、小山にある生家に歩いて行けないほど弱っていて、そ この〇八年 (平成二十年)、小山地区・笹森地内の秀雄の生家の 近くに、彼の詩「百姓人形」の詩碑が建立された。



【人間 織田秀雄」



真城小学校教員(松の木を背に立つ秀雄)